

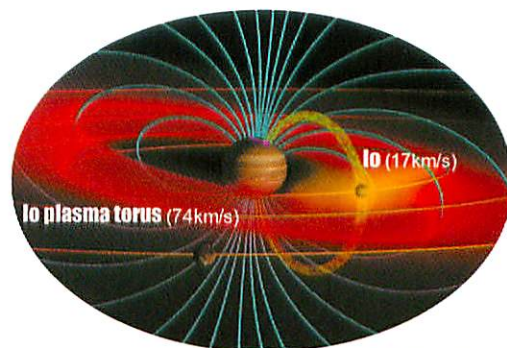
東北大学大学院理学研究科・ 理学部概要



理学研究科・総合棟



惑星圏観測所



木星と衛星イオと
イオプラズマトーラス



TOHOKU
UNIVERSITY

GRADUATE SCHOOL OF SCIENCE
FACULTY OF SCIENCE

平成18年4月

目 次

概 要	1
沿 革	2
歴代学部長(研究科長)	6
歴 代 事 務 長	7
機 構	8
1 大 学 院	8
2 学 部	9
3 事 務 部	9
4 専攻及び講座	10
5 学科及び学科目	11
6 附属施設	12
職 員 数	12
学 生	13
1 学生定員及び現員	13
(1) 大学院学生	13
(2) 学部学生	14
(3) 研究生及び科目等履修生	15
2 平成18年度入学者選抜状況	15
(1) 大学院学生	15
(2) 学部学生	15
3 修了者及び卒業者	16
(1) 大学院修了者	16
(2) 学部卒業者	16
4 論文提出による博士の学位授与者	17
(1) 学位令に基づくもの	17
(2) 学位規則に基づくもの	17
5 平成17年度修了者及び卒業者進路状況	18
(1) 大学院修了者	18
(2) 学部卒業者	18
6 連携大学院方式	19
7 外国人留学生数	19

科学研究費等	20
1 21世紀COE平成17年度研究拠点形成費等補助金(研究拠点形成費)	20
2 平成17年度科学研究費補助金採択状況	20
学術交流	21
1 研究員等受入れ状況	21
2 外国人研究員等受入れ状況	21
3 平成17年度の教職員海外渡航状況	21
4 学術交流協定校	21
予 算	22
1 平成17年度予算額	22
機 械 ・ 器 具	22
標 本 等	22
1 標 本	22
2 実験生物系統保存	22
学術研究発表誌	22
土 地 ・ 建 物	23
施 設 所 在 図	28
理学研究科・理学部青葉山地区配置図	29

概 要

明治40年（1907年）6月22日に東北帝国大学の創立と共に、その分科大学とし理科大学が仙台に、農科大学が札幌に設定された。理学部は、この理科大学に端を発し、本学で最も長い伝統を持つ学部である。

明治44年（1911年）、当時の内務大臣原敬の財政顧問であった古河虎之助並びに宮城県等からの寄付を基礎にして、片平地区に理科大学の建物群が竣工した。同年9月、先ず数学・物理学・化学の3学科が海外留学から帰朝した初代教授陣をもって発足し、次いで翌45年（1912年）には地質学科が発足した。

大正8年（1919年）理科大学は理学部となり、その後、大正11年（1921年）の生物学科開設をはじめ学科、講座等も次第に拡充され、東京、京都と並ぶ日本の理学教育・研究の拠点として発展を重ねた。昭和20年（1945年）7月10日第2次世界大戦末の仙台大空襲によって建物の大部分が焼失するなど大きな被害を受けたが、戦後の学制改革により、昭和24年（1949年）新制東北大学の理学部として再発足し、昭和36年（1961年）までには建物も復興されて戦災の痛手から立ち直り、新しい発展の時代を迎えた。

昭和28年（1953年）3月に大学院理学研究科が設置され、数学、物理学、化学、地学、生物学及び地球物理学の6専攻が発足したが、昭和32年（1957年）4月に原子核理学専攻、昭和33年（1958年）4月に天文学専攻が設置された。更に昭和37年（1962年）4月及び昭和39年（1964年）4月に化学第二学科及び物理学第二学科がそれぞれ増設されたことに伴い、昭和41年（1966年）4月に化学第二専攻及び昭和43年（1968年）4月に物理学第二専攻が設置され、理学部・理学研究科の教育研究活動は質・量ともに大幅に拡充された。

昭和44年（1969年）から同54年（1979年）にかけて片平地区からの移転整備が推進され、青葉山地区に緑豊かなキャンパスが完成した。更に、平成8年（1996年）から開始された物理研究実験棟の落成により、大きく姿を変えはじめている。当地は西に蔵王連峰を、東に仙台市街をはさんで遠く太平洋を望む高爽の地であり、研究と勉学にふさわしい環境に恵まれている。

平成6年～同7年（1994年～1995年）には、大学院理学研究科の重点化整備が行われ、それに伴い専攻の再編、大学院の大講座化、学部の大学科目化等が進められるとともに、大学院の学生定員が大幅に増員され、従来の理学部1部局から理学研究科及び理学部の2部局制となった。

現在7学科、7学科目、9附属教育・研究施設（2学部内施設を含む。）、大学院理学研究科6専攻28講座（大講座）と学部収容定員1,296人、大学院収容定員博士前期課程524人、博士課程後期課程390人、教職員371人を擁し、我が国の理学部中最大級の規模を有している。

本研究科・学部は、創立以来我が国における理学の教育・研究の一大中心として、15,942人の学士、7,306人の修士及び2,283人の博士など多くの人材を世に送り、すぐれた研究業績を挙げ社会に貢献してきた。特に、研究尊重の精神は創立以来今日に至るまで絶えることなく受け継がれている。世界のトップレベルにある研究者達が、純理論的研究から様々な新しいアイデアによる実験的研究に至るまで活発な研究活動を展開しており、これら先端研究は極めて多彩である。

一方、大正2年（1913年）に我が国で初めて女子学生の入学を許可するなど、広く内外に門戸を開き、教育・研究を通じて国内及び国際交流も極めて盛んである。多くの教職員・学生の海外への派遣及び外国人留学生、外国人研究者の受入れあるいは国際共同研究の実施や国際学会の主催等が日常的に行われており、理学研究科・理学部の教育・研究内容は国際的にも高い評価を受けている。

沿革

明	40.	6	勅令第 236 号により仙台の理科大学及び札幌の農科大学の 2 分科大学をもって東北帝国大学として創立
／	43.	12	省令第 35 号により、明治 44 年 1 月 1 日理科大学開設公示
／	44.	3	省令第 12 号により、数学、物理学、化学及び地質学の 4 学科を置く。前 3 学科は同年 9 月 11 日開講
／	44.	4	初代理科大学長小川正孝（化学）就任
／	45.	8	向山に附属観測所設置
／	45.	9	省令第 10 号により地質学科開講
大	4.	8	臨時理化学研究所設置
／	6.	9	省令第 10 号により応用化学科設置
／	8.	4	勅令第 13 号により理科大学は理学部となる。
／	8.	6	2 代学部長林 鶴一（数学）就任、工学部設立とともに応用化学科は工学部に所属換となる。
／	9.	9	勅令第 395 号により地球物理学講座及び鉄鋼学講座設置
／	11.	8	省令第 26 号により生物学科設置
／	11.	12	臨時理化学研究所廃止
／	12.	4	文部省告示第 263 号により第九臨時教員養成所が東北大学に附設、数学科、物理化学科を置く。
／	12.	6	3 代学部長日下部四郎太（物理）就任
／	13.	7	勅令第 157 号により青森市浅虫に附属臨海実験所設置
			4 代学部長に藤原松三郎（数学）就任
／	13.	8	地質学科が地質学古生物学（現在の地圏環境科学科）及び岩石鉱床学（現在の地球物質科学科）の 2 学科に分離
／	15.	7	5 代学部長に真島利行（化学）就任
昭	3.	7	6 代学部長に小林 巖（物理）就任
／	4.	4	青森市酸ヶ湯に附属八甲田山植物実験所設置
／	7.	3	文部省告示第 81 号により第九臨時教員養成所廃止
／	9.	9	勅令第 274 号により天文学講座設置
／	11.	7	7 代学部長窪田忠彦（数学）就任
／	14.	3	8 代学部長藤原松三郎（数学）再任
／	15.	10	9 代学部長小林 巖（物理）再任
／	17.	2	文部省告示第 54 号により仙台臨時教員養成所数学科設置
／	20.	1	地球物理学科設置
／	20.	4	勅令第 24 号により地球物理学が物理学教室から分離、独立教室（現在の宇宙地球物理学科）となる。
／	20.	6	勅令第 372 号により地理学講座（現在の地圏環境科学科）設置
／	21.	4	勅令第 205 号により帝国大学官制公布、同時に東北帝国大学官制廃止

昭 21.	4	このときにおける講座数、定員数は以下のとおりである。 講座数 36、教授 36、助教授 29、助手 49、事務官 2 地理学科設置（現在の地圏環境科学科）
◇ 21.	10	10 代学部長高橋純一（岩石）就任
◇ 22.	4	女川に附属女川地震津波地磁気観測所設置
◇ 22.	9	政令第 204 号により東北帝国大学は東北大学に改められた。
◇ 23.	3	仙台臨時教員養成所廃止
◇ 24.	3	11 代学部長山田光雄（物理）就任
◇ 24.	4	福島県猪苗代町翁島に附属開発地理学研究所設置
◇ 24.	5	法律第 150 号により学制改革に伴い国立学校設置法が公布され、新制大学が発足・同時に帝国大学官制廃止、あらたに国立大学として東北大学が設置され、理学部には数学科、物理学科、化学科、地学科地学第一、地学科地学第二、地学科地学第三、生物学科、天文及び地球物理学科第一並びに天文及び地球物理学科第二が置かれた。
◇ 26.	4	12 代学部長渡辺萬次郎（岩石）就任
◇ 27.	3	附属観測所が法律第 22 号により附属地震観測所となる。
◇ 28.	3	政令第 51 号により大学院理学研究科設置
◇ 28.	4	省令第 9 号により地学科地学第三は、地学科地理学となる。
◇ 28.	5	文部省告示第 41 号により理学研究科に数学、物理学、化学、地学、生物学及び地球物理学の 6 専攻を置く。
◇ 29.	9	省令第 23 号により本学部に置かれる講座の種類及び数が定められた。即ち、数学 5 講座、物理学 5 講座、鉄鋼学 3 講座、化学 5 講座、量子化学 1 講座、地質学 2 講座、古生物学 1 講座、岩石鉱物学 2 講座、鉱床学 2 講座、地理学 1 講座、生物学 6 講座、天文学 1 講座及び地球物理学 3 講座が設置された。
◇ 30.	3	13 代学部長藤瀬新一郎（化学）就任
◇ 32.	4	宮城県蔵王町遠刈田に附属遠刈田夜光観測所設置 省令第 7 号により附属女川地震津波地磁気観測所が官制化され理学部附属地磁気観測所となる。 理学研究科原子核理学専攻設置
◇ 33.	4	理学研究科に天文学専攻設置 仙台市青葉区川内に附属青葉山植物園設置
◇ 35.	4	省令第 6 号により植物園（従来の青葉山植物園）が官制化され理学部附属となる。
◇ 37.	4	省令第 11 号により化学第二学科設置 14 代学部長元村 勲（生物）就任
◇ 39.	2	省令第 3 号により数学科改称
◇ 39.	4	省令第 12 号により物理学第二学科設置
◇ 40.	3	省令第 17 号により秋田県に附属能代地殻変動観測所設置
◇ 40.	12	15 代学部長山本義一（地球物理）就任
◇ 41.	4	省令第 22 号により附属地震観測所は附属青葉山地震観測所に、附属能代地殻変動観測所は附属秋田地殻変動観測所に改正、八甲田山植物実験所が官制化され理学

昭	41.	4	部附属となる。また、省令同号により仙台市太白区富沢に附属原子核理学研究施設、秋田県本荘市に附属本荘地震観測所新設、理学研究科に化学第二専攻設置
◇	42.	5	省令第 11 号により岩手県三陸町に附属三陸地殻変動観測所設置
			省令第 13 号により学科序列のうち天文及び地球物理学科第一、同第二が物理学第二学科の次に入ることに改正された。
◇	43.	4	理学研究科に物理学第二専攻設置
◇	44.	3	16 代学部長加藤陸奥雄（生物）就任
◇	44.	6	省令第 18 号により岩手県遠野市に附属北上地震観測所設置
◇	46.	3	省令第 13 号により仙台市青葉区荒巻字青葉（以下「青葉山地区」と略称）に附属泡箱写真解析施設設置
◇	46.	6	16 代加藤学部長が学長に就任、17 代学部長鈴木次郎（地球物理）就任
◇	48.	4	省令第 10 号により附属超高層物理学研究施設が設置され、夜光観測所が附属超高層蔵王観測所となる。
◇	49.	4	省令第 13 号により仙台市青葉山地区に附属地震予知観測センター設置
◇	49.	6	18 代学部長森田 章（物理）就任
◇	51.	6	19 代学部長武田 暁（物理）就任
◇	53.	4	省令第 10 号により仙台市青葉山地区に附属化学機器分析センター設置
◇	54.	3	省令第 8 号により仙台市青葉山地区に附属超低温実験施設設置
			開発地理学研究所を福島県猪苗代町翁島より同県猪苗代町芹沢に移転し、新設
◇	54.	6	20 代学部長伊東 櫨（化学二）就任
◇	55.	3	省令第 5 号により青葉山地区に附属光エネルギー化学実験施設設置
◇	57.	3	附属超高層物理学研究施設が青葉山地区に設置された。
◇	57.	6	21 代学部長武田 暁（物理）再任
◇	60.	6	22 代学部長小西和彦（生物）就任
◇	61.	3	省令第 12 号により附属超低温実験施設が廃止され、附属極微少エネルギー物理学実験施設が設置
◇	61.	10	植物園記念館が附属植物園内に建設された。
◇	62.	3	省令第 10 号により附属光エネルギー化学実験施設が廃止
◇	62.	5	省令第 17 号により附属青葉山地震観測所が廃止され、附属地震予知観測センターが附属地震予知・噴火予知観測センターに改められ、附属有機ケイ素材料化学実験施設が青葉山地区に設置された。
◇	63.	6	23 代学部長黒田 正（数学）就任
平 元.		5	省令第 24 号により附属秋田地殻変動観測所及び附属本荘地震観測所が附属日本海地域地震観測所に改められた。
◇	2.	4	24 代学部長櫻井英樹（化学）就任
◇	2.	6	省令第 15 号により附属大気海洋変動観測研究センター設置
◇	2.	10	数理科学記念館が青葉山地区に建設された。
◇	3.	4	省令第 19 号により附属三陸地殻変動観測所及び附属北上地震観測所が附属三陸地域地震観測所に改められた。
◇	4.	4	省令第 9 号により天文及び地球物理学科第一、天文及び地球物理学科第二を宇

平	4.	4	宙地球物理学科に、地学科地学第一、地学科地理学を地圏環境科学学科に、地学科地学第二を地球物質科学学科に改称
／	5.	4	25 代学部長田中正之（大気海洋）就任
／	6.	4	省令第 8 号により物理学第二学科が物理学科に統合・改組 省令第 9 号により理学研究科物理学専攻、天文学専攻、地球物理学専攻及び地学専攻が整備（重点化）
／	7.	4	省令第 10 号により化学第二学科が化学学科に統合・改組 省令第 10 号により理学研究科数学専攻、化学専攻及び生物学専攻が整備（全専攻が重点化）
／	7.	10	自然史標本館設置
／	8.	3	附属極微少エネルギー物理学実験施設が時限到来により廃止（東北大学低温センターと統合改組し、東北大学極低温科学センター設置）
／	8.	4	26 代学部長・研究科長荻野 博（化学）就任
／	8.	5	省令第 18 号により附属有機ケイ素材料化学実験施設廃止（反応化学研究所附属有機資源・材料化学研究センターに統合・改組）
／	8.	5	附属植物園本館が建設された。
／	9.	4	省令第 13 号により、附属地震予知・噴火予知観測センター、附属日本海地域地震火山観測所及び附属三陸地域地震火山観測所が附属地震・噴火予知研究観測センターへ統合・改組
／	10.	4	省令第 21 号により、附属泡箱写真解析施設が研究科附属ニュートリノ科学研究センターに改組・転換 省令第 21 号により、附属核理学研究施設、附属超高層物理学研究施設、附属地磁気観測所、附属地震・噴火予知研究観測センター、附属大気海洋変動観測研究センター及び附属化学機器分析センターが研究科附属施設に転換
／	11.	4	省令第 12 号により、附属超高層物理学研究施設、附属地磁気観測所が附属惑星プラズマ・大気研究センターへ統合・改組 省令第 12 号により、附属臨海実験所、附属植物園、附属八甲田山植物実験所が研究科附属施設に転換 27 代学部長・研究科長佐藤 繁（物理）就任
／	12.	4	省令第 11 号により大気海洋変動観測研究センター時限により廃止・新設
／	13.	4	政令第 151 号により理学研究科生物学専攻が生命科学研究科に転換
／	14.	4	28 代学部長・研究科長 鈴木厚人（附属ニュートリノ科学研究センター）就任
／	14.	12	国際交流推進室設置
／	16.	4	国立大学法人法（平成 15 年法第 112 号）により、東北大学は国立大学法人東北大学となった。
／	16.	4	附属化学機器分析センターを附属巨大分子解析研究センターに改組・整備
／	16.	4	附属臨海実験所を附属浅虫海洋生物学研究センターに名称変更
／	16.	4	附属八甲田山植物実験所は附属植物園と統合し八甲田山分園とした
／	17.	4	29 代学部長・研究科長 橋本治（物理）就任
／	17.	4	附属浅虫海洋生物学研究センターが廃止され、生命科学研究科附属に移行した。 附属植物園が廃止され、学内共同教育研究施設へ移行した。

歴代学部長（研究科長）

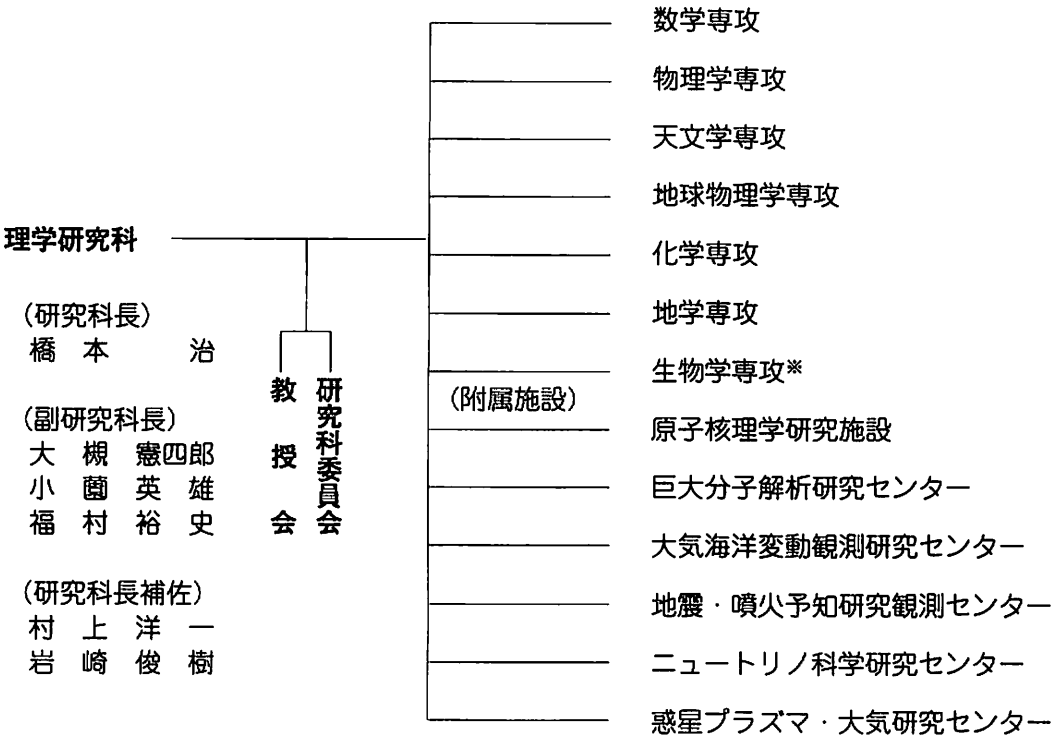
歴代	氏 名	学 科 等	期 間	備 考
初代	小 川 正 孝	化 学	明 44. 4.25~大 8. 3.31	理科大学長
			大 8. 4. 1~大 8. 6.29	理学部長
2 代	林 鶴 一	数 学	大 8. 6.30~大 12. 6.29	
3 代	日下部 四郎太	物 理	大 12. 6.30~大 13. 7. 3	大 13.7.3 死去、林前学部長が学部長代理となる。
4 代	藤 原 松三郎	数 学	大 13. 7.25~大 15. 7.24	
5 代	真 島 利 行	化 学	大 15. 7.25~昭 3. 7.24	
6 代	小 林 巖	物 理	昭 3. 7.25~昭 11. 7.24	
7 代	窪 田 忠 彦	数 学	昭 11. 7.25~昭 14. 3.30	
8 代	藤 原 松三郎	数 学	昭 14. 3.31~昭 15.10. 4	
9 代	小 林 巖	物 理	昭 15.10. 5~昭 21.10. 4	
10代	高 橋 純 一	岩 石	昭 21.10. 5~昭 24. 3.30	
11代	山 田 光 雄	物 理	昭 24. 3.31~昭 26. 3.31	
12代	渡 辺 萬次郎	岩 石	昭 26. 4. 1~昭 30. 3.30	
13代	藤 瀬 新一郎	化 学	昭 30. 3.31~昭 37. 3.31	
14代	元 村 勲	生 物	昭 37. 4. 1~昭 40.11.30	
15代	山 本 義 一	地球物理	昭 40.12. 1~昭 44. 3.31	
16代	加 藤 陸奥雄	生 物	昭 44. 4. 1~昭 46. 4.30	
17代	鈴 木 次 郎	地球物理	昭 46. 6.10~昭 49. 6. 9	前学部長、学長就任のため昭 46.5.1~46.6.9 学部長事務取扱となる。
18代	森 田 章	物 理	昭 49. 6.10~昭 51. 6. 9	
19代	武 田 暁	物 理	昭 51. 6.10~昭 54. 6. 9	
20代	伊 東 檉	化 学 二	昭 54. 6.10~昭 57. 6. 9	
21代	武 田 暁	物 理	昭 57. 6.10~昭 60. 6. 9	
22代	小 西 和 彦	生 物	昭 60. 6.10~昭 63. 6. 9	
23代	黒 田 正	数 学	昭 63. 6.10~平 2. 3.31	
24代	櫻 井 英 樹	化 学	平 2. 4. 1~平 5. 3.31	
25代	田 中 正 之	大気海洋	平 5. 4. 1~平 8. 3.31	
26代	荻 野 博	化 学	平 8. 4. 1~平 11. 3.31	学部長・研究科長
27代	佐 藤 繁	物 理	平 11. 4. 1~平 14. 3.31	学部長・研究科長
28代	鈴 木 厚 人	ニュートリノ	平 14. 4. 1~平 17. 3.31	学部長・研究科長
29代	橋 本 治	物 理	平 17. 4. 1~	学部長・研究科長

歴代事務長

氏 名	期 間	備 考
山 本 順 恵	昭24. 5.31~昭25. 6.28	
柴 田 大 三	昭25. 8.15~昭27. 6.30	
曾 我 鉀 司	昭27. 7. 1~昭37. 6.30	
萱 場 利 春	昭37. 7.16~昭43. 3.31	
山 田 利 雄	昭43. 4. 1~昭47. 3.31	
武 田 松 一	昭47. 4. 1~昭52. 3.31	
阿 部 栄 一	昭52. 4. 1~昭54. 3.31	
汲 川 六 郎	昭54. 4. 1~昭55. 3.31	
洞 口 英 夫	昭55. 4. 1~昭59. 3.31	
桃 井 辰一郎	昭59. 4. 1~昭63. 3.31	
大 場 隆 志	昭63. 4. 1~平 2. 3.31	
酒 井 良 樹	平 2. 4. 1~平 3. 3.31	
猪 狩 勉	平 3. 4. 1~平 6. 3.31	
阿 部 経 三	平 6. 4. 1~平 8. 3.31	
金 田 一 夫	平 8. 4. 1~平11. 3.31	
大 森 光 徳	平11. 4. 1~平14. 3.31	
長谷川 征 喜	平14. 4. 1~平15. 3.31	
荒 井 勝 則	平15. 4. 1~平17. 6.30	
渋谷 幸 雄	平17. 7. 1~	

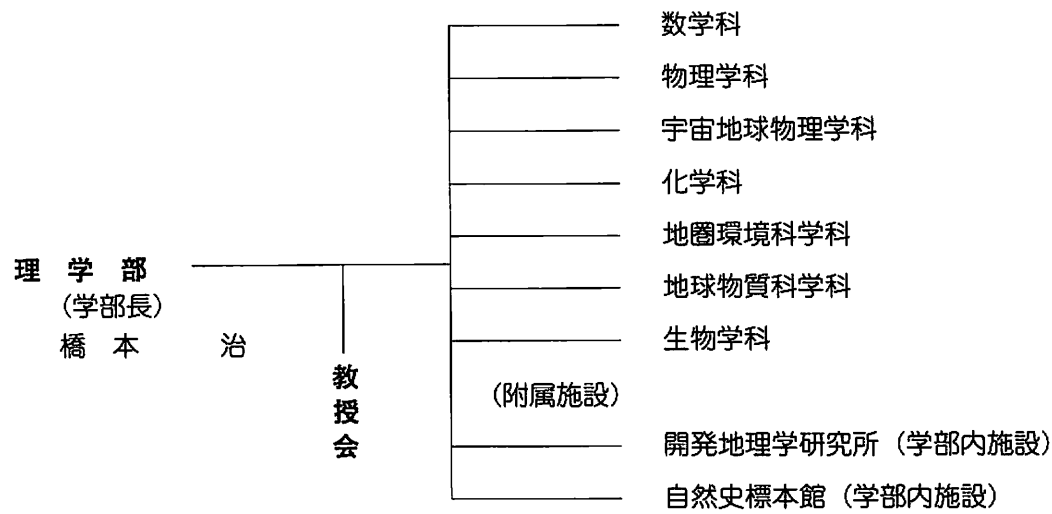
機 構

1 大 学 院 (博士課程)

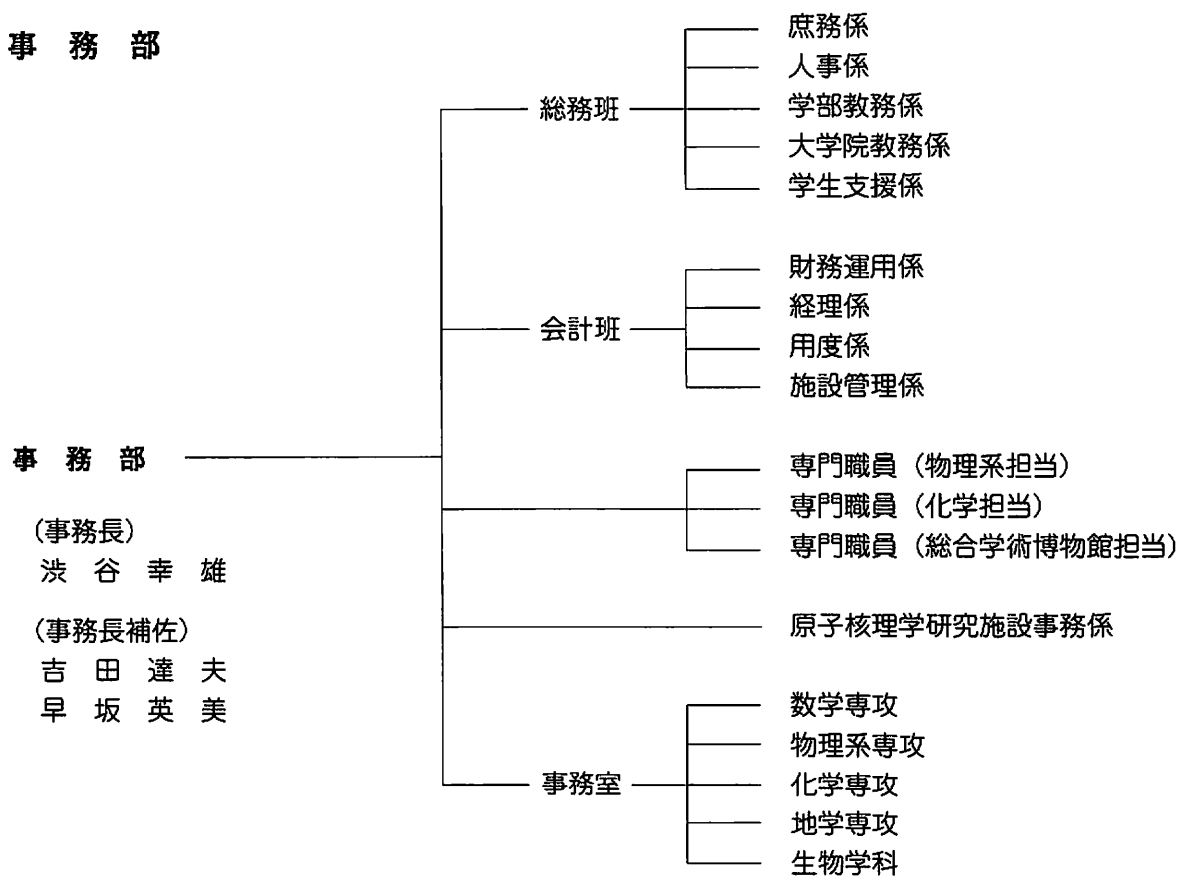


※ 平成13年3月31日に在学する者が、当該専攻に在学しなくなる日までの間、存続する。

2 学 部



3 事 務 部



4 専攻及び講座（理学研究科）

専攻・講座名（講座数：28）	専攻設置年	専 攻 長	備 考
数学専攻（5 講座） 代 数 学 講 座 幾 何 学 講 座 解 析 学 講 座 多 様 体 論 講 座 応 用 数 理 講 座	昭 28	石 田 正 典	
物理学専攻（7 講座） 量 子 基 礎 物 理 学 講 座 素 粒 子 ・ 核 物 理 学 講 座 電 子 物 理 学 講 座 量 子 物 性 物 理 学 講 座 固 体 統 計 物 理 学 講 座 相 関 物 理 学 講 座 領 域 横 断 物 理 学 講 座	昭 28	江 澤 潤 一	
天文学専攻（2 講座） 天 文 学 講 座 理 論 天 体 物 理 学 講 座	昭 33	土 佐 誠	
地球物理学専攻（4 講座） 固 体 地 球 物 理 学 講 座 太 陽 惑 星 空 間 物 理 学 講 座 流 体 地 球 物 理 学 講 座 地 球 環 境 物 理 学 講 座	昭 28	佐 藤 春 夫	
化学専攻（5 講座） 無 機 ・ 分 析 化 学 講 座 有 機 化 学 講 座 物 理 化 学 講 座 境 界 領 域 化 学 講 座 先 端 理 化 学 講 座	昭 28	飛 田 博 実	

専 攻・講 座 名	専攻設置年	専 攻 長	備 考
地学専攻（5 講座） 地 圏 進 化 学 講 座 環 境 地 理 学 講 座 地 球 惑 星 物 質 科 学 講 座 環 境 動 態 論 講 座 比 較 固 体 惑 星 学 講 座	昭 28	吉 田 武 義	
生物学専攻※	昭 28	山 元 大 輔	

※ 平成13年3月31日に在学する者が、当該専攻に在学しなくなる日までの間、存続する。

5 学科及び学科目

学 科 名	学 科 目 名	学科設置年	学 科 長 及 び 学 科 委 員
数 学 科	数 学	明 44	学 科 長：石 田 正 典 学科委員：石 田 正 典・高 木 泉
物 理 学 科	物 理 学	明 44	学 科 長：江 澤 潤 一 学科委員：江 澤 潤 一・青 木 晴 善 山 口 昌 弘
宇宙地球物理学科	宇宙地球物理学	大 9	学 科 長：土 佐 誠 学科委員：土 佐 誠・佐 藤 春 夫
化 学 科	化 学	明 44	学 科 長：飛 田 博 実 学科委員：飛 田 博 実・上 田 実
地圏環境科学科	地圏環境科学	明 44	学 科 長：箕 浦 幸 治 学科委員：箕 浦 幸 治・日 野 正 輝
地球物質科学科	地球物質科学	明 44	学 科 長：吉 田 武 義 学科委員：吉 田 武 義
生 物 学 科	生 物 学	大 11	学 科 長：山 元 大 輔 学科委員：山 元 大 輔

（備考） 平成 6 年度より、物理学第二学科は物理学科に、平成 7 年度より、化学第二学科は化学科に、それぞれ統合・改組された。

6 附属施設

(1) 研究科附属

施設・部門名	設置年	施設の長	備考
原子核理学研究施設 (3研究部門)	昭 41	笠 木 治郎太	時限 (平 23. 3. 31)
電子ライナック研究部門	昭 41		
電子線反応研究部門	昭 42		
核内クォーク研究部門	平 13		
巨大分子解析研究センター	昭 53	平 岡 正 博	(平 16. 4. 1改組・整備)
大気海洋変動観測研究センター (4研究部)	平 12	中 澤 高 清	時限 (平 22. 3. 31)
大 気 変 動 研 究 部	〃		
海 洋 変 動 研 究 部	〃		
熱 流 量 研 究 部	平 3		
大 気 海 洋 環 境 研 究 部	〃		
地震・噴火予知研究観測センター (3研究部)	昭 62	長谷川 昭	
地 震 予 知 観 測 研 究 部	〃		
火山噴火予知観測研究部	〃		
海 域 総 合 観 測 研 究 部	平 9		
ニュートリノ科学研究センター (2研究部)	平 10	井 上 邦 雄	時限 (平 20. 3. 31)
ニュートリノ物理研究部	〃		
微 弱 光 計 測 研 究 部	〃		
惑星プラズマ・大気研究センター (2研究部)	平 11	岡 野 章 一	時限 (平 21. 3. 31)
惑 星 電 波 観 測 研 究 部	〃		
惑 星 分 光 観 測 研 究 部	〃		

(2) 学部附属

施設名	設置年	施設の長	備考
開発地理学研究所	昭 26	今 泉 俊 文	
自然史標本館	平 7	永 廣 昌 之	

職 員 数

(平 18. 4. 1 現在)

区 分	教 授	助 教 授	講 師	助 手	事務職員	技 術 系 員	計
客 員	(2)						(2)
連 携	(7)	(3)					(10)
委 嘱	(8)	(6)					(14)
				[1]	[2] 〈4〉		[3] 〈4〉
計	85	79	7	93[1]	61[2]	43	368[3]

※ () 書きは外数で、客員2名及び連携委嘱24名(教授14名、助教授10名)を示す。

〈 〉 書きは内数で、北青葉山分館職員を示す。

[] 書きは外数で、休職者を示す。

外部資金等により雇用する任期付常勤教員を含む。

学 生

1 学生定員及び現員

(1) 大学院学生

(平 18. 4. 1 現在)

区 分 専 攻	前 期 2 年 の 課 程						後 期 3 年 の 課 程							
	1 年		2 年		計		1 年		2 年		3 年		計	
	定 員	現 員	定 員	現 員	定 員	現 員	定 員	現 員	定 員	現 員	定 員	現 員	定 員	現 員
数 学 専 攻	38	35	38	35	76	70	18	7	18	15	18	15	54	37
物 理 学 専 攻	91	84	91	100	182	184	46	24	46	17	46	41	138	82
天 文 学 専 攻	9	7	9	15	18	22	4	5	4	4	4	5	12	14
地 球 物 理 学 専 攻	26	34	26	30	52	64	13	8	13	12	13	17	39	37
化 学 専 攻	66	67	66	59	132	126	33	22	33	25	33	40	99	87
地 学 専 攻	32	31	32	38	64	69	16	10	16	10	16	30	48	50
※ 生 物 学 専 攻												1		1
計	262	258	262	277	524	535	130	76	130	83	130	149	390	308

※平成 13 年 4 月 1 日付けで生命科学研究科の新設に伴い、生物学専攻が廃止された。

(2) 学部学生

(平 18. 4. 1 現在)

		1 年		2 年		3 年		4 年		計	
		定 員	現 員	定 員	現 員	定 員	現 員	定 員	現 員	定 員	現 員
数 学 科		45	53	45	56	45	48	45	57	180	214
物 理 系	物 理 学 科	78	125	78	122	78	86	78	108	312	524
	宇宙地球物理学科	41		41		41	41	41	42	164	
化 学 科		70	74	70	77	70	74	70	92	280	317
地球科学系	地 圈 環 境 学 科	30	56	30	52	30	36	30	40	120	225
	地 球 物 質 学 科	20		20		20	14	20	27	80	
生 物 学 科		40	47	40	47	40	52	40	49	160	195
計		324	355	324	354	324	351	324	415	1,296	1,475

(3) 研究生及び科目等履修生

(平 18. 5. 1 現在)

	研 究 生	科目等履修生	特別聴講学生	特別研究学生
学 部	2	5	7	
大 学 院	24	1	0	3

2 平成18年度入学者選抜状況

(1) 大学院学生

区 分 専 攻	前 期 2 年 の 課 程				後 期 3 年 の 課 程			
	募 集 人 員	志 願 者 数	志 願 倍 率	入 学 者 数	募 集 人 員	進 学 者 数	編入学 者 数	合 計
数 学 専 攻	38	52	1.4	35	18	7	0	7
物 理 学 専 攻	91	117(1)	1.3	84(1)	46	21	3	24
天 文 学 専 攻	9	25	2.8	7	4	5	0	5
地 球 物 理 学 専 攻	26	48(1)	1.8	34(1)	13	8	0	8
化 学 専 攻	66	78(2)	1.2	67(1)	33	20(2)	2(1)	22(3)
地 学 専 攻	32	39(1)	1.2	31(1)	16	9	1(1)	10(1)
計	262	359(5)	1.4	258(4)	130	70(2)	6(2)	76(4)

() 内は、外国人留学生で、内数である。

(2) 学部学生

区 分		募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	合格者数	入学者数
一般選抜	前期日程	229	467 ○1 ※2	2.0	458 ○1 ※2	247 ※2	240 ※2
	後期日程	58	416	7.2	232	69	64
A 0 入 試 II 期		37	105	2.8	105	49	49
計		324	988 ○1 ※2	3.2	795 ○1 ※2	365 ※2	353 ※2

(1) ※印は、特別選抜私費外国人で、外数である。(定員外)
○印は、特別選抜帰国子女で、外数である。(定員外)

3 修了者及び卒業者

(1) 大学院修了者

専攻	前期 2 年 の 課 程			後期 3 年 の 課 程 ※		
	昭 30. 3～ 平 17. 3	平 17. 4～ 平 18. 3	計	昭 30. 3～ 平 17. 3	平 17. 4～ 平 18. 3	計
数 学 専 攻	625	25	650	51	8	59
物 理 学 専 攻	1,495	73	1,568	389	13	402
物 理 学 第 二 専 攻	371	0	371	111	0	111
原 子 核 理 学 専 攻	397	0	397	209	0	209
天 文 学 専 攻	201	12	213	90	6	96
地 球 物 理 学 専 攻	665	32	697	153	7	160
化 学 専 攻	1,469	64	1,533	554	23	577
化 学 第 二 専 攻	505	0	505	190	0	190
地 学 専 攻	732	27	759	224	13	237
生 物 学 専 攻	613	0	613	241	1	242
計	7,073	233	7,306	2,212	71	2,283

※東北大学大学院通則第 34 条第 3 項による修了者を含む。

(2) 学部卒業者

設置区分 学 科	東 北 帝 国 大 学		東 北 大 学			
	理科大学	理 学 部	理学部(旧制)	理 学 部 (新 制)		合 計
	大 3. 7～ 大 7. 12	大 8. 6～ 昭 22. 9	昭 23. 3～ 昭 29. 3	昭 28. 3～ 平 9. 3	平 9. 4～ 平 18. 3	
数 学 科	23	404	117	1,564	387	2,068
物 理 学 科	35	418	141	1,600	671	2,412
物 理 学 第 二 学 科				1,083	2	1,085
宇宙地球物理学科 (天文分野) 天文地球物理学科第一				316	426	1,416
宇宙地球物理学科 (地球物理分野) (天文地球物理学科第二)		11	49	625		

次のページに続く→

設置区分 学 科	東 北 帝 国 大 学		東 北 大 学			
	理科大学	理 学 部	理学部(旧制)	理 学 部 (新 制)		合 計
	大 3. 7～ 大 7. 12	大 8. 6～ 昭 22. 9	昭 23. 3～ 昭 29. 3	昭 28. 3～ 平 9. 3	平 9. 4～ 平 18. 3	
化 学 科	42	500	169	1,481	609	3,263
化 学 第 二 学 科				1,004		
地圏環境科学科 (地質分野) (地質学古生物学科) (地学科地学第一)		165	57	477	242	1,183
(地 質 学 科)	20	14				
地圏環境科学科 (地理学分野) (地 理 学 科) (地学科地理学)			34	373		
地球物質科学科 (岩石鉱物鉱床学科) (地学科地学第二)		196	85	623	164	872
生 物 学 科		193	74	1,160	388	1,622
計	120	1,901	726	10,306	2,889	13,921
合 計	15,942					

4 論文提出による博士の学位授与者

- (1) 学位令（大正 9 年 7 月 6 日勅令第 200 号）に基づくもの 944人
- (2) 学位規則（昭和 28 年文部省令第 9 号）に基づくもの

年 度	平成 6 年度	平成 7 年度	平成 8 年度	平成 9 年度	平成10年度	平成11年度
人 数	18	16	22	20	21	21
累 計	1,058	1,074	1,096	1,116	1,137	1,158
年 度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
人 数	14	17	7	11	6	8
累 計	1,172	1,189	1,196	1,207	1,213	1,221

5 平成17年度修了者及び卒業生進路状況

(1) 大学院修了者

区 分 課 程	修 了 者	進 学 者	就 職 者	日 本 学 術 会 議 会 振 興 特 別 研 究 員 等	研 究 員 研 究 生 等	そ の 他
前 期 2 年 の 課 程	233	71	148		2	12
後 期 3 年 の 課 程	71	0	24	7	28	12
計	304	71	172	7	30	24

(2) 学部卒業生

区 分 学 科	卒 業 者	進 学 者	就 職 者	研 究 生 等	そ の 他
数 学 科	40	28	9	0	3
物 理 学 科	79	67	8	0	4
宇宙地球物理学科	44	33	5	0	6
化 学 科	74	68	3	0	3
地 圏 環 境 学 科	23	14	5	0	4
地 球 物 質 学 科	17	14	3	0	0
生 物 学 科	40	33	6	0	1
計	317	257	39	0	21

6 連携大学院方式

連携大学院方式は、国立及び民間の試験研究機関と研究交流・連携を図り、大学院理学研究科に連携・委嘱分野を設置し、その研究機関の研究者を委嘱又は、客員教授として招へいし、研究領域の多様化、豊富化を通じて教育研究の高度化を図る制度である。

専攻名	連 携 ・ 委 嘱 分 野	連 携 研 究 機 関 名
物理学専攻	加 速 器 科 学	日本原子力研究開発機構 高エネルギー加速器研究機構
	ア ク チ ノ イ ド 物 理	日本原子力研究開発機構
	量 子 計 測	N T T 物 性 科 学 基 礎 研 究 所
地球物理学専攻	固 体 地 球 物 理 学	独立行政法人防災科学技術研究所
化学専攻	分 離 化 学	独立行政法人産業技術総合研究所
	重 元 素 化 学	日本原子力研究開発機構
地学専攻	地 圏 物 質 循 環 学	独立行政法人産業技術総合研究所
	〃	独立行政法人国立環境研究所
	地 球 内 部 反 応	独立行政法人産業技術総合研究所
	〃	独立行政法人物質・材料研究機構物質研究所

7 外国人留学生数

(平 18. 5. 1 現在)

国 籍	学部学生	大 学 院 学 生		学 部 研究生	大学院 研究生	特 別 研 学 別 究 生	特別聴講 学 生	計
		博 士 課 程						
		前期2年 の 課 程	後期3年 の 課 程					
韓 国	1	1	4				1	7
ス リ ラ ン カ			3					3
中 国	8	5	10		2		2	27
バングラディシュ			3					3
フィリピン		1	1					2
マレーシア			1					1
ミャンマー		1	1					2
モンゴル		1	2			1		4
エジプト		1	2			1		4
コ ン ゴ			1					1
インドネシア		2	4					6
タ イ			2					2
フ ラ ン ス							1	1
アメリカ合衆国			1				2	3
ロ シ ア			1					1
ベ ト ナ ム			1					1
イ ン ド		1	4					5
ベ ル ギ ー			1					1
ポ ー ラ ン ド			1					1
オ ラ ン ダ							1	1
キ ル ギ ス		1						1
イ ラ ン			1					1
計	9	14	44		2	2	7	78

科学研究費等

1 21世紀COE

平成17年度研究拠点形成費等補助金（研究拠点形成費）

（単位：千円）

プログラム名	採択年度	交付金額	備 考
大分子複雑系未踏化学	平成 14 年度	176,000	
物質階層融合科学の構築	平成 15 年度	152,000	
先端地球科学技術による地球の未来像創出	平成 15 年度	148,000	

2 平成17年度科学研究費補助金採択状況

（単位：千円）

研究種目名	件 数	交付を受けた研究費	備 考
特 別 推 進 研 究	4	405,900	
特 定 領 域 研 究	22	244,000	
特 別 研 究 促 進 費	1	18,800	
基 盤 研 究 (S)	5	63,600	
基 盤 研 究 (A) 一 般	13	156,700	
基盤研究(A)海外学術	2	28,400	
基 盤 研 究 (B) 一 般	37	195,800	
基盤研究(B)海外学術	3	13,600	
基 盤 研 究 (C) 一 般	37	48,200	
基盤研究(C)企画調査	1	3,500	
萌 芽 研 究	25	37,200	
若 手 研 究 (A)	7	46,700	
若 手 研 究 (B)	29	36,800	
学 術 創 成 研 究 費	3	236,700	
小 計	189	1,535,900	
特別研究員奨励費	63	59,300	
合 計	252	1,595,200	

学術交流

1 研究員等受入れ状況 (平成 17 年度)

種 別	受入者数
民間等との共同研究	2
受託研究員	3
受託研修員	2
学振特別研究員 (P. D.)	7
計	14

2 外国人研究員等受入れ状況 (平成 17 年度)

種 別	受入者数
外国人教師・講師	0
日本学術振興会	
外国人招へい研究者	5
外国人特別研究員	18
二国間学術交流・その他	0
客員研究員	1
理学研究科・理学部外国人招へい研究者	4
計	28

3 平成17年度の教職員海外渡航状況

種 別	1ヶ月未満	1ヶ月以上
国立大学法人	84	2
文部科学省事業		
21世紀COEプログラム	78	2
海外先進教育研究実践支援プログラム	0	3
その他の文部科学省事業	5	0
その他	1	0
その他の政府関係機関		
日本学術振興会	22	1
科学技術振興機構	28	0
科学研究費補助金	226	1
科学技術振興調整費	8	0
その他	35	2
その他		
寄付金等	68	0
地方自治体	0	0
外国政府・研究機関及び国際機関	14	0
私費	11	0

4 学術交流協定校

協 定 大 学 等	締 結 年 月 日
シドニー大学(オーストラリア)	1993年 1 月 8 日
ペンシルベニア州立大学(米国)	1988年 11 月 29 日
メルボルン大学理学部(オーストラリア)	1988年 3 月 15 日 1993年 2 月 24 日更新
ユトレヒト大学生物学部(オランダ)	1993年 7 月 28 日 1997年 3 月更新
アラスカ大学フェアバンクス校(米国)	1995年 1 月 12 日 1999年 1 月 12 日更新
サセックス大学(英国)	1997年 3 月 17 日
ウーメオ大学(スウェーデン)	1997年 8 月 18 日
ドルトムント大学(ドイツ)	1999年 3 月 2 日
スラナリー工科大学(タイ)	1999年 6 月 18 日
コペンハーゲン大学(デンマーク王国)	1999年 9 月 20 日
イリノイ大学シカゴ校(米国)	2000年 5 月 1 日
光州科学技術院(韓国)	2000年 8 月 21 日
吉林大学(中国)	2001年 3 月 1 日
廈門大学海洋・環境科学院(中国)	2002年 12 月 6 日
チュラロンコン大学理学部(タイ)	2003年 2 月 14 日
ゲッチンゲン大学化学研究科(ドイツ)	2003年 6 月 25 日
ハイデルベルグ大学化学研究科(ドイツ)	2003年 8 月 19 日
聖南大学(中国)	2003年 10 月 15 日
韓国水産研究振興院	2004年 3 月 31 日
ヨーク大学(英国)	2004年 7 月 19 日
中国科学院南海研究所	2004年 10 月 4 日
ロシア科学アカデミー極東支部	
太平洋研究所	2004年 12 月 13 日
自動制御処理研究所	2004年 12 月 13 日
ベトナム国立大学ハノイ校ハノイ科学大学	2005年 5 月 30 日
韓国国立公州大学大学院	2006年 2 月 1 日

予 算

1 平成17年度予算額

区 分	金 額	備 考
運 営 費	5,834,208,671 円	
寄 附 金 事 業 費	121,314,743	
受 託 研 究 費	421,872,703	
受 託 事 業 費	28,163,907	
預 り 補 助 金	44,502,000	
計	6,450,062,024	

機械・器具

(平 18. 3. 31 現在)

資 産 区 分	数 量	金 額	備 考
機 械 及 び 装 置	54	564,688 千円	
工 具 ・ 器 具 及 び 備 品	1,324	4,451,927	
車両その他の陸上運搬具	17	24,152	
計	1,395	5,040,767	

備考：本調は、50 万円以上の品目である。

標 本 等

1 標 本

保 存 数	標 本 点 数	タ イ プ 標 本 点 数
古 生 物 関 係	1,138,000	8,710
岩 石 ・ 鉱 物 関 係	276,600	
動 物 関 係		
(生 態 進 化 生 物 学 講 座)	300,000	80

2 実験生物系統保存

種 類	保 存 数
哺 乳 動 物 由 来 の 培 養 細 胞	15 種
ハ ツ カ ネ ズ ミ	13 系統
ヤ ナ ギ 科 植 物	200 種

学術研究発表誌 (○英文、●和文)

- 東北大学理科報告 第1集(化学)年1回発行 既刊巻数 81 巻 (2004)
- 東北大学理科報告 第2集(地質学)年2回発行 既刊巻数 63 巻 2 号 (1996)
- 東北大学理科報告 第3集(岩石・鉱物学・鉱床学)年1回発行 既刊巻数 17 巻 1 号 (1989)
- 東北大学理科報告 第4集(生物学)年1回発行 既刊巻数 40 巻 4 号 (2000)
- 東北大学理科報告 第5集(地球物理学)年4回発行 既刊巻数 37 巻 1 号 (2004)
- 東北数学雑誌 年4回発行 既刊巻数 58 巻 1 号 (2006)
- 東北大学理科報告 第7集(地理学)年2回発行 既刊巻数 54 巻 2 号 (2005)
- 東北大学理科報告 第8集(物理学・天文学)年3回発行 既刊巻数 24 巻 1 号 (2003)
- 核理研究報告 年1回発行 既刊巻数 38 巻 (2005)
- 東北大学理学部地質学古生物学教室研究邦文報告 不定期 既刊巻数 93 号 (1992)
- Tohoku Mathematical Publications 不定期 既刊号数 31 号 (2006)

土地・建物

(平 18. 4. 1 現在)

(単 位 : m²)

施設名	土 地	建 物					
		木 造		R C ・ B ・ S 建		計	
		建	延	建	延	建	延
理 学 研 究 科 ・ 理 学 部	青葉山地区敷地内	3	3	16,696	64,332	16,699	64,335
地 震 ・ 噴 火 予 知 研 究 観 測 セ ン タ ー	〃			1,011	3,115	1,011	3,115
原 子 核 理 学 研 究 施 設	富沢地区敷地内	682	682	3,464	6,563	4,146	7,245
〈 県 内 〉							
惑 星 圏 女 川 観 測 所	▲ 43,111	172	235	52	52	224	287
惑 星 圏 蔵 王 観 測 所	▲ 29,319			130	238	130	238
惑 星 圏 川 渡 観 測 所	川渡農場敷地内			61	61	61	61
惑 星 圏 米 山 観 測 所	▲ 1,600			101	101	101	101
釜 房 地 震 観 測 点	▲ 144			▲ 5	▲ 5	▲ 5	▲ 5
川 渡 地 震 観 測 所	川渡農場敷地内						
金 華 山 地 震 観 測 点	12,238	2	2			2	2
若 柳 地 震 観 測 点	▲ 100			12	12	12	12
蔵 王 火 山 観 測 点	▲ 492			6	6	6	6
津山広帯地域地震観測点	▲ 9						
七ヶ宿火山観測点	▲ 340						
気仙沼総合観測線観測点	▲ 112						
地球物理学科第二大気境界 層観測所（小牛田地区）	▲ 1,038			19	19	19	19
江 島 地 震 観 測 点	▲ 100			12	12	12	12
手 倉 山 無 線 中 継 点	▲ 181			6	6	6	6

施設名 区分	土 地	建 物					
		木 造		R C ・ B ・ S 建		計	
		建	延	建	延	建	延
〈青 森 県〉							
深 浦 地 震 観 測 点	▲ 100			12	12	12	12
階 上 地 震 観 測 点	▲ 49 735			4	4	4	4
東 通 地 震 観 測 点	▲ 100			12	12	12	12
〈岩 手 県〉							
大 東 総 合 観 測 線 観 測 所	▲ 210						
黒 沢 尻 総 合 観 測 線 観 測 点	▲ 200						
花 巻 地 殻 変 動 観 測 点	▲ 370						
松 川 火 山 観 測 点	▲ 36						
岩手火山（松尾）総合観測点	▲ 143			24	32	24	32
岩 手 山 火 山 観 測 点	▲ 465			36	46	36	46
岩手火山（西根）実験井	▲ 14						
岩手火山（滝沢）実験井	▲ 14						
三 陸 地 震 観 測 所	5,282			134	346	134	346
三 陸 地 震 観 測 点	▲ 100			12	12	12	12
沢 内 地 震 観 測 点	▲ 82			4	4	4	4
相 沢 火 山 観 測 点	▲ 100			6	6	6	6
玄 武 洞 観 測 点	▲ 102			12	12	12	12
橋 場 観 測 点	▲ 100			12	12	12	12
男 神 山 観 測 点	▲ 145						
遠 野 地 震 観 測 所	▲ 8,408 4,613			247	377	247	377
普 代 地 震 観 測 点	▲ 110			12	12	12	12

施設名 区 分	土 地	建 物					
		木 造		R C ・ B ・ S 建		計	
		建	延	建	延	建	延
姫 神 地 殻 変 動 観 測 点	▲ 2,596			28	57	28	57
宮 古 地 殻 変 動 観 測 点	▲ 1,112			12	12	12	12
焼 走 火 山 観 測 点	▲ 80			6	6	6	6
沢 内 総 合 観 測 線 観 測 点	▲ 185						
〈秋 田 県〉							
秋 田 地 震 観 測 所	1,053			253	337	253	337
仁 別 地 殻 変 動 観 測 点	▲ 1,106	48	48	81	81	129	129
田 沢 湖 総 合 観 測 線 観 測 点	▲ 200						
西 木 総 合 観 測 線 観 測 点	▲ 200						
五 城 目 総 合 観 測 線 観 測 点	▲ 100						
本 荘 地 震 観 測 所	892			165	270	165	270
二 ツ 井 地 震 観 測 点	▲ 1,551			35	55	35	55
秋 田 焼 山 火 山 観 測 点	▲ 133						
大 湯 火 山 観 測 点	▲ 140						
秋 田 駒 ヶ 岳 火 山 観 測 点	▲ 100						
岩 城 地 震 観 測 点	▲ 100			12	12	12	12
男 鹿 地 殻 変 動 観 測 点	▲ 1,935	48	48	81	81	129	129
〈山 形 県〉							
温 海 地 震 観 測 点	▲ 443			35	55	35	55
湯 の 台 火 山 観 測 点	▲ 105						
鮭 川 火 山 観 測 点	▲ 152						
飛 鳥 プ レ ー ト 活 動 点 総 合 観 測 点	▲ 78			6	6	6	6

施設名	土 地	建 物					
		木 造		R C ・ B ・ S 建		計	
		建	延	建	延	建	延
白 布 火 山 観 測 点	▲ 20						
酒 田 地 震 観 測 点	▲ 100			12	12	12	12
村 山 地 震 観 測 点	▲ 110			12	12	12	12
東 根 気 象 観 測 点	▲ 37						
〈福 島 県〉							
惑 星 圏 飯 舘 観 測 所	▲ 24,092			102	150	102	150
開 発 地 理 学 研 究 所 (猪 苗 代 地 区)	990			208	208	208	208
北阿武隈地殻変動観測点	▲ 25						
い わ き 沖 地 震 観 測 点	いわき沖 プラットホーム内						
安 達 太 良 火 山 観 測 点	▲ 192						
磐 梯 火 山 観 測 点	▲ 788						
微 温 湯 火 山 観 測 点	▲ 220						
南 吾 妻 火 山 観 測 点	▲ 22						
い わ き 地 震 観 測 点	▲ 251						
金 山 地 震 観 測 点	▲ 26						
南 会 津 地 震 観 測 点	▲ 260						
〈新 潟 県〉							
新 発 田 地 震 観 測 点	▲ 169						
佐 渡 プ レ ー ト 活 動 点 総 合 観 測 点	▲ 133			6	6	6	6
〈栃 木 県〉							
八 溝 地 震 観 測 点	▲ 25						

施設名	土 地	建 物					
		木 造		R C ・ B ・ S 建		計	
		建	延	建	延	建	延
〈岐 阜 県〉							
液 体 シ ン チ レ ー タ 反 ニ ュ ー ト リ ノ 観 測 施 設	▲ 666 ※ 16,940			111	216	111	216
計	▲ 124,846 25,803	955	1,018	▲ 5 23,262	▲ 5 76,980	▲ 5 24,217	▲ 5 77,998

備考：1 ▲印は借入数量（含無償）を示す。

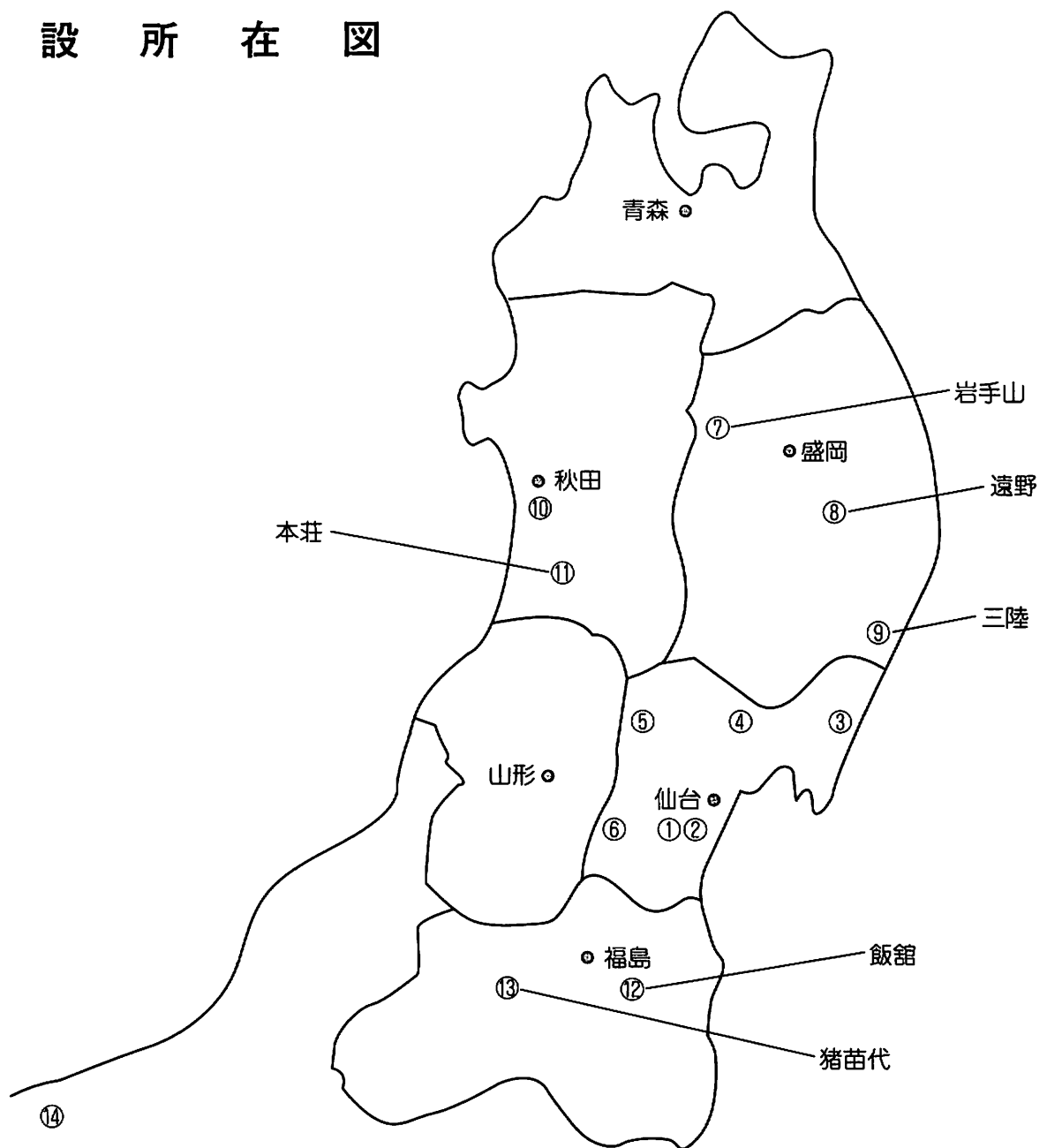
2 ※印は、神岡鉱山鉱区使用面積で外数である。

3 理学研究科・理学部及び地震・噴火予知研究観測センター（青葉山地区）は、
青葉山地域敷地（工学部、薬学部等含む。）763,934 m²内に含まれる。

4 原子核理学研究施設は、富沢地区敷地 113,850 m²内に含まれる。

5 川渡地震観測点及び惑星圏川渡観測所は、農学研究科附属農場敷地 18,542,442 m²内に
含まれる。

施設所在図



①青葉山地区

巨大分子解析研究センター
大気海洋変動観測研究センター
地震・噴火予知研究観測センター
ニュートリノ科学研究センター
惑星プラズマ・大気研究センター
自然史標本館

②富沢地区

原子核理学研究施設

③惑星圏女川観測所

④惑星圏米山観測所

⑤惑星圏川渡観測所

⑥惑星圏蔵王観測所

⑦岩手火山(松尾)総合観測点

⑧遠野地震観測所

⑨三陸地震観測所

⑩秋田地震観測所

⑪本荘地震観測所

⑫惑星圏飯舘観測所

⑬開発地理学研究所

⑭液体シンチレータ

反ニュートリノ観測施設
(岐阜県飛騨市神岡町)

東北大学大学院理学研究科
東北大学理学部

〒 980 - 8578 仙台市青葉区荒巻字青葉 6 番 3 号

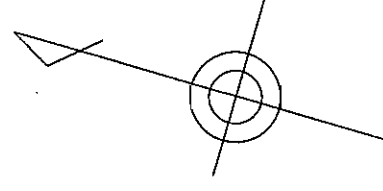
☎ 市外局番 0 2 2 (ダイヤルイン)

東北大学理学研究科・理学部

研究科長・学部長室	7 9 5 - 6 3 4 2
事務長室	7 9 5 - 6 3 4 3
事務長補佐(総務)	7 9 5 - 6 3 4 4
事務長補佐(会計)	7 9 5 - 6 3 5 4
専門職員(物理系担当)	7 9 5 - 6 4 9 3
専門職員(化学担当)	7 9 5 - 6 6 0 1
専門職員(総合学術博物館担当)	7 9 5 - 6 7 6 8
庶務係	7 9 5 - 6 3 4 6
人事係	7 9 5 - 6 3 4 8
学部教務係	7 9 5 - 6 3 5 0
大学院教務係	7 9 5 - 6 3 5 1
学生支援係	7 9 5 - 6 4 0 3
財務運用係	7 9 5 - 6 3 5 2
経理係	7 9 5 - 6 3 5 3
用度係	7 9 5 - 6 3 5 5
施設管理係	7 9 5 - 6 3 5 8

FAX	総務班	7 9 5 - 6 3 6 3
	会計班	7 9 5 - 6 3 6 4
	教務	7 9 5 - 6 3 4 5

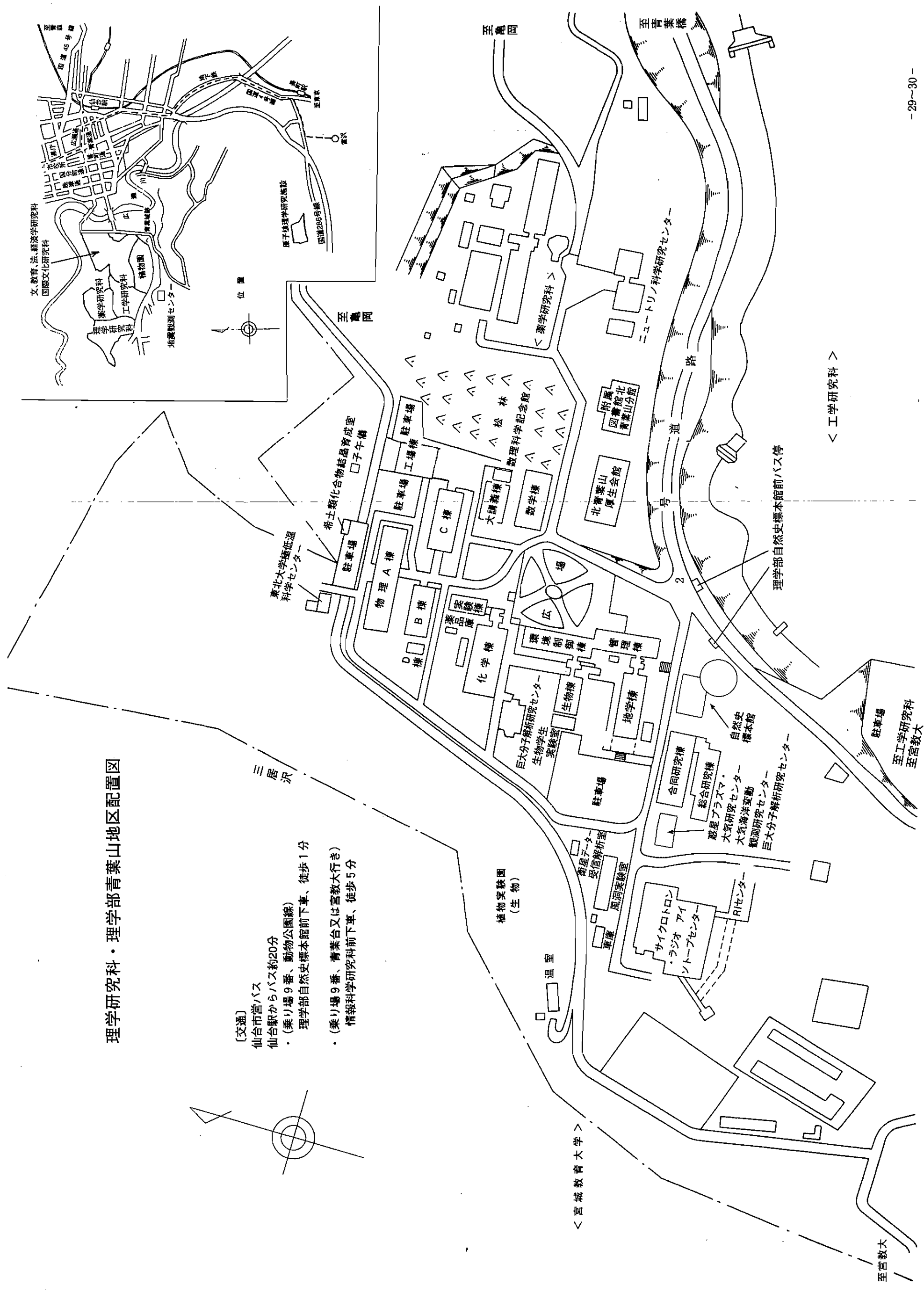
理学研究科・理学部青葉山地区配置図



- 〔交通〕
- 仙台市営バス
仙台駅からバス約20分
 - ・(乗り場9番、動物公園線)
理学部自然史標本館前下車、徒歩1分
 - ・(乗り場9番、青葉台又は宮教大行き)
情報科学研究科前下車、徒歩5分

< 宮城教育大学 >

至宮教大



< 工学研究科 >

至工学研究科
至宮教大